

行政視察報告書

視察名	会派「みんなの未来」行政視察
視察日時	平成30年2月2日（金） 午後1時30分～2時30分
視察先	東京都 世田谷区
視察項目	ア ペーパーリサイクル（紙の地産地消）事業について
1 活動内容	
<p>庁舎内で使用し不要になった使用済みの紙から再生紙を作る新たな製紙機の導入について、世田谷区を視察した。世界で初めて使用済みの紙を原料として、文章情報を完全に抹殺した上で、新たな紙を生産する紙の地産地消ともいえるもので、この新しい製紙機は水を使うことがないため、オフィス内に設置し使用することが可能なことや、障害者が操作等に携わることができるため障害者雇用の促進にもつながる紙の地産地消の取り組みについて視察した。</p>	
2、調査項目	
上記記載のとおり	
3 調査結果	
1) 実施日	上記記載のとおり
2) 出席者	5名 吉村幸代、田口輝子、小林あや、小林弘明、宮下正夫
3) 内容	<p>○世田谷区と(株)世田谷サービス公社との「紙の地産地消」連携事業について</p> <p>東京都世田谷区にある(株)世田谷サービス公社が、世田谷区での紙を循環させる「紙の地産地消」事業に製紙機を導入して、区と公社が連携して進めている取り組みについて話を聞いた。</p> <p>世田谷区は人口90万人を越す大都市。区内にある(株)世田谷サービス公社は、世田谷区の第三セクターとして設立された会社で、従業員820人余り、うち障害のある社員が90人、この90人の社員が区内17カ所の公共施設において、床のモップ掛けや各種清掃作業、公園の清掃等に従事し、市の委託事業として公社が実施しているとのこと。加えて本年度から新たに区役所内に導入された製紙機の運用業務が追加となり、障害のある</p>

<p>人を採用して製紙機の操作等に從事させているとのことであった。</p>
<p>○製紙機の仕組みと特徴について</p>
<p>新たに開発された技術によって、繊維化、結合、成形といった一連の工程が連続して瞬時におこなわれ、使用済みの紙から新たな紙をその場で生み出すことができる。</p>
<p>(製紙機の工程と特徴)</p>
<p>イ、繊維化では機械的な衝撃により、水を使わずに使用済みの紙を細長い繊維に変え、文章情報を一瞬にして完全に抹消する。</p>
<p>ロ、結合では、繊維化された使用済みの紙は、結合素材を使用することによって繊維を結合させる。様々な結合素材により、白色度の向上や色付けを行うことができる。</p>
<p>ハ、成形では、結合した繊維を加圧して新たな紙にするが、加圧時に密度や厚み、形状をコントロールすることで、A4 や A3 サイズの紙、また名刺などに使用できる厚紙などを生産することができる。</p>
<p>○製紙機の利点について</p>
<p>①区の事業所内で発生した使用済みの紙を繊維に分解し、印字内容を抹消することができるため、個人情報保護の強化につながる。</p>
<p>②新しい紙の調達や使用済みの紙の処理場への輸送を減らすことができるため、CO2削減に貢献し環境負荷が低減される。</p>
<p>③古紙を再生する際に、染料により再生紙を着色することで、リサイクルが目に見える形で実感できるため、再生紙を利用する職場の意識啓発をはじめ、幼稚園、小・中学校を対象とした環境教育に活用できる。</p>
<p>④紙の地産地消という先駆的な取り組みについて、他の自治体に情報発信できる。</p>
<p>⑤製紙機の運用が障害者雇用の促進につながる。</p>
<p>4 所 感</p>
<p>現在、この製紙機の導入は、全国で10例目くらいである。開発した企業が県内に本社を置く大手メーカーであることから、県内での導入は、諏訪市、塩尻市、長野県庁の3箇所にのぼる。紙の地産地消の取り組みや運用が障害者雇用の促進につながることから、市は研究、検討をすすめられ紙の地産地消を早期に実現して欲しい。</p>

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 156,780 円 (詳細は別紙に記載)

平成30年2月28日

松本市議会議員 上條 俊道 様

会派「みんなの未来」 宮下 正夫